

12082 現代英語演習Ⅰc Contemporary English SeminarⅠ		3年、Ⅰ前期・Ⅱ後期 4年、Ⅲ前期・Ⅳ後期 2単位	
2083 現代英語演習Ⅱc／2084 現代英語演習Ⅲc／2085 現代英語演習Ⅳc			
担当者	柏原 信幸	履修可能学科	E必
		関 連 資 格	
サブタイトル	日英対照語い研究		
授業内容・ねらい	日本語と英語の語いを比較研究しようとする授業です。「語い」の比較検討はその言語を長い間使ってきた民族の「文化」の比較に即つながります。 「言語と文化」というテーマで一番取っつきやすいのが、「食」に関する語いを比較検討することです。ですからこの授業のホントのテーマは「食に関する語いの日英対照研究」とすべきかも知れません。 このクラスでは日本と英米の食事のしかた、調理方法、食材などを表す語いを比較検討します。日本の食といえば、中国・東南アジアとのつながりが切っても切れないし、英米の食と言えばフランス・イタリアの影響が大きいなんてものではないですね。当然そっち（中国語・フランス語）の検討もしなくてはなりません。今年度は主として《食文化・調理法・器具》に関する言葉を調べてみましょう。 「百読は一食にしかず」とも言いますから、財布に余裕があり、胃袋の丈夫な人はいろんな土地の食べ物を食べ歩いてみましょう。味を覚えたら作ってみましょう。（実はこの部分が一番のセールスポイントだったりして） ※このクラスに向かない人－食費と本代をケチる人。一コマの授業にあまり時間と手間をかけたくない人。偏食・小食の人。		
授業計画	まずは2～3回程度私のレクチャーで、食文化に関する基本的なところから始めます。その後、前期中に手分けて大事な地域のいくつかについて、食文化の研究と言葉の研究を平行してやっていきます。その様子を見て後期の授業計画を立てます。 後期は各地の調理方法やら、調理器具やら色々勉強しよう。実習も増えると思います。出来れば各地の調理器具(早く言えば鍋)をお母さんの許しを得て、買って実際に作ってみるのがいいと思います。		
教科書 参考書	参)『世界の食べ物』（朝日新聞社）、『世界の食文化』（農文協）		
評価方法	授業中のレポートと討論参加。年度末のレポート。		
事前準備学習 履修条件等			